

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

教育相談 第123号

- 小・中・高等学校，特別支援学校対象 -
平成19年5月発行

ピアサポートを生かした いじめのない学級集団づくり

いじめ問題は，児童生徒の心身に重大な影響を及ぼすとともに，場合によっては命にかかわることもある深刻な問題であり，学校，家庭，地域が一体となって取り組むべき重要な課題である。

また，近年のいじめは，陰湿化・長期化の傾向にあり，いじめの当事者だけ

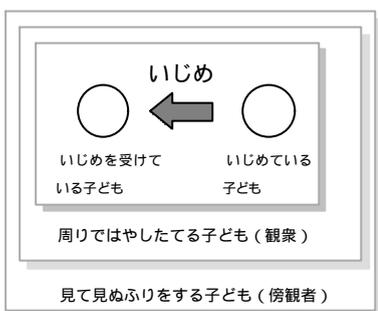


図1 いじめの構造

「観衆」や「傍観者」の児童生徒も含めたいじめの構造（図1）をしっかりと認識するとともに，教師として「いじめは絶対に許されない。」という強い姿勢でいじめの解決に当たり，未然防止につながる集団づくりに取り組むことが求められる。

そこで本稿では，効果的な手だてとして注目されている，ピアサポートを生かしたいじめのない学級集団づくりについて述べる。

1 児童生徒の願い

当センターでは，平成18年度に児童生徒の学校生活や気になることなどに関する実態調査を実施した。その中で「不安を感じ

たときにかかわってほしい相手」として，多くの児童生徒が「友達」を選択している（図2）。学年別にみると，「友達」を選択している割合は，小学5年から学年が上がるにつれて増えている。とりわけ，中学1年から高校1年にかけて，6割を超す生徒が「友達」を選択している。

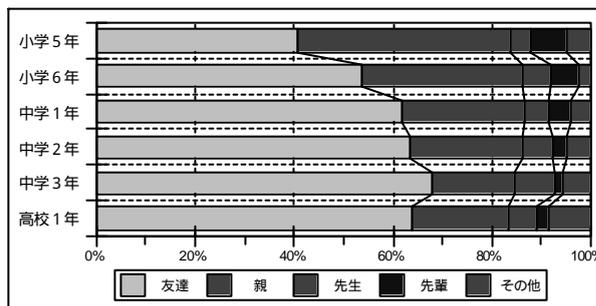


図2 かかわってほしい相手

調査時期：平成18年9月下旬～10月上旬
 調査対象：小学校 5年610人，6年613人
 中学校 1年485名，2年485人，3年469人
 高等学校 1年513人，計 3,175人

このように児童生徒は，交友関係で悩むことが多いが，同時に，不安を感じたときにかかわってほしい相手も「友達」であることが分かる。

2 ピアサポートとは

ピアサポートの「ピア」とは「同年代の仲間」の意味で，「サポート」とは「支援，援助」を指す。つまりピアサポートとは「児童生徒

同士が互いに支え合う関係」のことである。支え合う関係づくりには、相手の意図や動機、感情を考慮した適切な対応ができることが大切である。

そこで、児童生徒が相互にかかわる機会を活用して、支え合う関係をつくり出そうとするピアサポートプログラムについて述べる。

3 ピアサポートプログラム

(1) ピアサポートプログラムとは

ピアサポートプログラムとは、ゲームやロールプレイングを活用した体験的なトレーニングを通して、児童生徒に基礎的な社会的スキルを段階的に育て、互いに支え合うような関係(ピアサポート)をつくり出そうとするものである。

実施に当たっては、児童生徒が共感的・受容的な姿勢や態度を身に付け、協調的で、信頼できる人間関係をつくることに配慮する。こうした建設的な人間関係を維持するために、基本となるのが次の5点の学習課題である(表1)。

表1 建設的な人間関係を維持するための学習課題

(ア) 協力 共に学び合い、信じ合い、助け合い、分かち合うこと。
(イ) コミュニケーション 人をよく観察し、理解し合い注意深く話を聴くこと。
(ウ) 積極的な感情表現 攻撃的なやり方ではなく、恐れや怒りを表現する方法。
(エ) 違いの称賛 人との違いと共通点を尊敬し、称賛し合うこと。
(オ) もめ事の解決 もめ事に対して、創造的に対応すること。

(2) ピアサポートプログラムの具体的活動

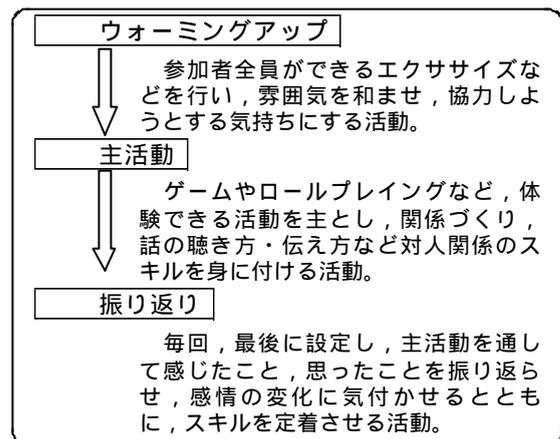
ピアサポートプログラムは、児童生徒の仲間を支援するための基礎的な社会的

スキルを育てるスキルトレーニング(領域1)と、領域1で学んだスキルを実際の活動の中で発揮し、児童生徒同士が互いに支え合うような関係をつくり出すサポート活動(領域2)の組み合わせで実施する。

領域2では、領域1で学んだことをどのような場で発揮させるか明確に想定し、それに応じた行事や交流の場を意図的に設定することが重要である。

一般的には、ウォーミングアップ 主活動 振り返りという流れで一つの単元を構成する(表2)。

表2 活動の流れ



(3) 教師が指導する上での留意事項

領域1, 2において、児童生徒主体の取組の中で「思いやり」の気持ちが自然と身に付くようにすることが大切である。

特に領域2では、取組が児童生徒任せにならないよう配慮するとともに、次に挙げる教師の意図的・計画的な支援が必要である(表3)。

表3 教師の意図的・計画的な支援

(ア) 児童生徒が自ら気付くよう促し、そのための支援を行う。
(イ) 学級だけでなく、学年、学校全体へと活動が広がるよう取り組む。
(ウ) 児童生徒の変容を見守る。

4 中学校におけるピアサポートプログラムの実践例

小学校6年時に比べ、中学校1年時におけるいじめ、不登校が急増する現象、いわゆる「中1ギャップ」の傾向を踏まえ、中学校でのピアサポートプログラムの実践例を紹介する。

(1) 中学校におけるピアサポートプログラムの全体計画

学年	1年	2年	3年
ねらい	新たな出会いを通して、自分のよさや可能性に気付く。 互いの違いを認め協力し合う。 規則正しい生活を送る。	周りの人々の生き方や自然に学ぶ。 課題をピアサポートの観点で解決できる。 自分らしさを発見する。	自分の個性や適性を生かし、自分の生き方を見いだす。 体験や活動を通して、豊かな感性を培い命や人権を大切にする。
主たるスキル	人間関係についての基本的な知識 相手の考えと気持ちの理解の仕方 自分の気持ちの伝え方 人間関係の問題を解決する方法	⇒	・あいさつ、自己紹介 ・優しい聞き方 ・質問の仕方 ・仲間の誘い方、入り方 ・温かい言葉掛け ・気持ちを分かった働き掛け ・優しい頼み方、上手な断り方 ・トラブルを解決する考え方
活主 動 な の 場	<ul style="list-style-type: none"> ・「短学活」等毎日、設定された時間（領域1） ・「各教科」、「道徳」、「特別活動」（領域1, 領域2） ・「総合的な学習の時間」に位置付けられたピアサポートプログラムの内容（領域1, 領域2） ・「学校行事」（領域2） <p style="text-align: right;">など</p>		

（ねらいは、横浜市立本郷中学校の Web ページを参考に作成した。）

(2) 中学校第1学年におけるピアサポートプログラムの計画（全10時間：総合的な学習の時間を活用）

月	ピアサポート活動	ピアサポートの視点	身に付けさせたい姿勢	基本となる学習課題（表1参照）				
				協力	コミュ	表現	称賛	解決
4月 ～ 5月 (3時間)	1 対人関係の気づきを基に、自他のよさを認め自己有用感を高める。							
	自己理解への支援 ・先生を知る	教師の自己開示により生徒とのリレーションをつくる。 自己紹介で自分らしさや対人関係の特徴を理解する。	感情を分かち合う。 話を最後まで聴く。 友達を助ける。 遊びの中に入る。					
	他者理解への支援 ・仲間づくり	心を開いて、教師、友達などとスキップを図る。 友達のことを紹介して、友達への理解を深める。	友達の意見と異なる場合、理由を言う。					
	自己理解、他者理解への支援	友達のよさを見付け褒めたり、友達が見付けたよさ受け入れたりする心地よさを味わう。	友達に親切にする。 友達の頼みを聴く。					
6月 ～ 7月 (4時間)	2 体験的な活動を通して、自ら学び自ら考える力を高める。							
	人間関係づくり ・他者紹介	相手の話を聴く体験をする。 紹介される気持ちを味わう。	相手の気持ちを考えて話す。					
	いろいろな聴き方 ・自己紹介と他者紹介	「相づち」だけで話を聴いたり、聴いてもらったりする体験を通して、友達の気持ちを理解することの大切さを意識する。	友達の意見を最後まで聴く。 自分や友達のよさを見付け、よく話す。					
	いろいろな聴き方 ・聴き方のいろいろ (本時)	実際の応答の仕方の中から、友達のことを思いやった聴き方があることを見付ける。	最後まで話を聴こうとする。					
	人間関係づくり ・ロールプレイング	いじめられる側といじめる側の両方の体験から、望ましい振る舞い方を知る。	相手の気持ちを考えた行動をする。					
9月 ～ 12月 (3時間)	3 自分を見つめ、課題を解決しようとする力を育てる（実践の場）。							
	体育大会を成功させよう	話を聴く雰囲気をつくり、友達のよさを分かりやすく話す。 体育大会に向けて仲間づくりを行う。（準備～当日～体育大会後）	友達を助ける。 相手の気持ちを考えて話す。 仲間意識を強化する。					
	みんなで協力、クラスマッチ	困っている友達へのサポート活動を進んで行う。 友達を思いやった行動を意識的に実践しようとする。	友達を助ける。 友達のよさや自分のよさを見付ける。 自信ある行動をとる。					

（基本となる学習課題は、表1に示した5点の課題を簡略化して表記した。）

(3) ピアサポートプログラムの実際

中学校第1学年総合的な学習の時間学習指導案		
<p>1 単元 「いろいろな聴き方」 2 本時 「聴き方のいろいろ」 2 / 2 (1) 目標 友達の話を聴く大切さを理解し、自分の話を相手に聴いてもらうことを体験的に学ぶとともに、望ましい話の聴き方を身に付ける。 (2) 指導上の留意点 ア 導入では、ウォーミングアップを通して、和やかな雰囲気づくりに役立つようなショートエクササイズを行うとともに、活動の見通しをもつようにする。 イ 「スキルのポイントを考える」では、無表情で対応したり、相づちだけや共感的な態度で聴くなど、様々な場面を想定した上で、聴く態度の大切さを感じることができるようになる。 (3) 実際</p>		
流れ	ピアサポート活動	指導上の留意点
ウ オ ミ ン グ ア ッ プ ↓ 主 活 動 ↓ 振 り 返 り	1 ウォーミングアップをする。 「ネームゲーム」をする。 ・グループごとにいすに座って円をつくる。 ・最初の生徒から「 の好きな (名前) です」と自己紹介する。 ・その隣の生徒は「 の好きな さんの隣の××が好きな です」と続ける。 ・最後の生徒まで一周する。	和やかな雰囲気をつくる。 活動中は「忘れても大丈夫」という雰囲気をつくり、途中で内容を忘れてしまったときは、周りの生徒が助けてもよいことを伝える。 話を上手に聴くと、たくさんの方がよく分かること、話を上手に聴いてもらうと気持ちがいいことなど、聴く側、聴かれる側の両方の立場を体験させ「話を聴く」ことの大切さに気付くようにする。
	2 本時のめあてを確認する。 「上手に聴く」コツを身につけよう。	相手の話を聴くとき、どのように聴けばよかったかを考えさせ、聴き方のポイントに気付くようにする。 無表情で話を聴いたとき、表情豊かに聴いたときの話し手の気持ちを比較させ、表情豊かに言葉を受け止めることの大切さを実感させる。
	3 本時のスキルを知る。 話をよく聴いていなかったために、失敗したというシナリオを提示する。 4 スキルのポイントを考える。 5 「積極的に聴く」スキルポイントを理解する。 よくない聴き方を実際に体験する。 ・ 他のことをしながら聴く。 ・ うつむいたまま聴く。 ・ 無表情で聴く。 「積極的に聴く」ポイントを理解する。 ・ 今、していることをやめて聴く。 ・ 相手をよく見て聴く。 ・ うなずきながら聴く。	聴き方には、共感、促し、繰り返し、言い換え、要約、明確化、沈黙、質問があることを踏まえ、それぞれによる対応の仕方を場面に応じて理解させる。 話し手と聴き手の二人の間に、安心感がうまれるようにする。 「相手をよく見る」では体ごと相手に向けること、「うなずき」は極端にしなくてもよいことを伝える。 活動中に沈黙になった場合、沈黙の意味と対応の大切さを考えさせ、配慮させるようにする。
6 振り返る。 聴き手としてがんばったこと、話し手は聴いてもらったときの気持ちはどうだったかという観点で振り返る。 日常生活へ定着できるよう励ます。	「よかった」ところを、できるだけ具体的に発表させる。 スキルが使える日常生活の場面を紹介し、定着化への意欲をもつことができるようにする。	

本稿では、ピアサポートを生かしたいじめのない学級集団づくりについて述べてきた。ピアサポートプログラムについて、滝(2000)は「子どもの自立に対する『見通し』をもってプログラム化やカリキュラム化を進め、学級や学年を超える、さらには地域へといった『広がり』をもちうる活動」と述べている。このことを十分に踏まえながら、ピアサポートを生かした取組を、学級や学年だけ

でなく、学校全体にまで広げ、児童生徒が相互に協力し合う関係づくりに学校全体で取り組むことが望まれる。

【引用・参考文献】

金子書房「ピア・サポートではじめる学校づくり 中学校編」 滝 充 編著2000年2月
 「ピア・サポートではじめる学校づくり実践導入編」 滝 充 編著2002年1月
 金子書房「現代カウンセリング事典」國分康孝 監修2001年12月
 鹿児島県総合教育センター研究紀要 第100号
 「不登校への予防的対応に関する研究」平成14年3月
 岡山県教育センター「ピア・サポートを高等学校に取り入れるための実践的研究」平成13年2月
 横浜市立本郷中学校 Web ページ
 「総合的な学習の時間におけるピア・サポート・プログラム」

(教育相談課)